

令和6年度 スッキーニ 技術情報 No. 3

大船渡農業改良普及センター
電話：0192-27-9918
FAX：0192-27-9936

- ① **人工授粉**や**トマトトーン処理**を行い、着果を促進させましょう。
- ② 8月以降は、**べと病**や**うどんこ病**の発生に注意しましょう。

1 授粉

ズッキーニは、訪花昆虫や風による自然交配が基本ですが、**35℃以上の高温**や9℃以下の低温環境下では、花粉の生成量が少なくなり、不稔となる場合が多いです。**人工交配**や**トマトトーン処理**を行うことで、確実に着果させることができます。

(1) 人工授粉

- ・ 当日咲いた雄花の花弁を除去し、葯で雄花の柱頭をなぞるようにして均一に花粉を付着させます。
- ・ 高温期は早朝から午前7時頃までには作業を終えるようにしましょう。
- ・ 1つの雄花で5～6花分の授粉が可能です。
- ・ 雄花は必ず上を向いて咲きますので、雨が降ると花粉が濡れてしまい授粉に使えません。翌日が降雨予報時は、前日に翌日開花しそうな雄花を確保しておきましょう。（ただし、雌花の柱頭が濡れていると授粉できません。）

(2) トマトトーン処理による着果促進

- ・ トマトトーンは、植物ホルモン「オーキシン」の作用を利用した薬剤であり、着果を促進させる効果があります。
- ・ 高温期は早朝から午前7時頃までには作業を終えるようにしましょう。

表1 トマトトーンの農薬登録情報

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	使用回数
ズッキーニ	着果促進	50倍	開花当日	花に1回

※令和6年7月24日の農薬登録情報に基づいて作成しています。

2 病害対策

(1) ベと病

- ・ **20～25℃の多湿条件下**では発生しやすいです。
- ・ **肥切れや成り疲れなどによって、草勢が衰えると発生**が増えるため、肥培管理に注意しましょう。

(2) うどんこ病

- ・ 最初は下葉に白い粉をまぶしたようなカビが発生し、のちに上位葉や茎にもみられるようになります。
- ・ **高温乾燥や草勢低下によって発生**しやすいので、草勢の維持に努めましょう。

(3) 軟腐細菌病（腐敗）

- ・ 主茎や果実が軟化腐敗し、腐敗した部分に白い菌泥が付着して悪臭を放ちます。
- ・ 病原細菌は、**土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖**します。雨によってほ場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。
- ・ **降雨前の防除の実施と圃場排水・草勢維持**に努めましょう。また、**罹病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分**しましょう。

拡大すると→



図1 ベと病の病斑



図2 うどんこ病の病斑



図3 軟腐細菌病により腐敗した罹病株

【トピックス】ソルゴーによる防風対策

ズッキーニは、浅根性で葉が大きいいため、風に弱く倒伏しやすいです。倒伏による減収を防ぐために、令和6年度は、大船渡地方農業振興協議会の事業でソルゴーによる防風対策実証を行っています。

5月下旬にズッキーニ圃場の4辺にソルゴーを播種しました。7月下旬時点で草丈が3mに達し、風よけの効果が発揮できる高さまで成長しました。



図4 3mの高さまで成長したソルゴー



図5 圃場の周囲を囲むソルゴーの様子

★いわてアグリベンチャーネット

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう！

★クマにご注意ください！

各地でクマによる人身被害が多発しています。農作業に当たっては、クマとの不意の遭遇に十分注意してください。

★農作業中の熱中症を予防しましょう！

予防のポイントは、①暑さを避ける、②こまめな休憩と水分補給、③単独作業は避ける、④熱中症アイテムの活用です。